

町村議会広報

研修会報告

第83回町村議会広報研修会が、平成27年10月20日から21日までの日程で、東京都千代田区にあるシエーンパッハ・サポーター(砂防会館・別館)で開催され、全国各地から約1,000名(県内36名)が参加しました。

第1日目は、広報コンサルタント・小田順子氏から「伝える広報から伝わる広報」と題し、見やすい文書の作り方、読みやすい文の書き方、分かりやすい文章の書き方など講義を受け、次に社団法人地域活性化センター・広報室長・島田千鶴氏による「思わず手に取る読みたくなる議会だよりを目指して」というテーマで、読ませる魅せる広報媒体づくりのための講義を受けました。



第2日目は、広報編集コンサルタントの芳野政明氏から「議会広報のクオリティアップ」について、

報の企画・編集の手ほどきを受けました。

今回は、例年、全国コンクールにおいて、受賞を続けている鳥取県大山町議会の「議会だより・だいせん」と山形県川西町議会の「かわにし」の紹介、解説がありました。今回、紹介された両紙には、明確な編集理念があり、情報紙に負けない編集方針を立て、遵守し、議会モニターやアドバイザーを委嘱するなど積極的に活動されています。この研修で学んだことを本町の議会広報に活かして、より充実した編集に努める必要を痛感しました。(松田・河口・江崎)

熊本市町村議会

議員研修会報告

熊本市内の町村議員が一堂に会して、議員の資質向上を目指すために、毎年町村議会議長会が開催する研修会が10月27日に益城町文化会館で開催された。

講師に元総務大臣の片山善博氏を招いて、「地方議会の課題とその活性化策」と題して、これからの地方議会がどうあるべきかの講演があった。

その内容に少し触れてみると、現在の町村議会においては、山積する課題について白熱する議論も無く、執行部の提案を多数決で議決する傾向が顕著になつてしまつてい



議会制民主主義とは、少数意見に対しても議員は耳を傾けるべきであ

議論しながら集約していく手法を取らなければならぬ。

今、町村議会は、国が示した「地方創生」やPPP等について、町村の将来に対して白熱した議論を行うべき、大切な時期にきている。

しかし、町村議会として執行部の提案した計画を賛成するだけに留まれば、町村議会のありべき姿は、議会内でそれぞれのテーマに対して議論をし、議員提案ができるような議会に改革することが必要である。

これからの町村は、生き残りのために熾烈な自治体間競争に突入していくが、「地方創生」の波に取り残された町村は、消滅自治体としての道を歩むことになるというものであった。

今回の研修は、町村議会議員に対して非常に厳しい改革を求められ、議会の役割とあるべき姿の方向性が示されたと思ひ、今後の議会活動に対し襟を正して、町民の皆様への負託にこたえるよう努力邁進しなければならぬと感じた。(江崎)

町民と行政、議会が一丸となって
小さな合併の利点を活かした取り組みを…。
氷川町議会議長 永田義昭

氷川町誕生10周年記念式典での、

永田議長の祝辞を紹介します。

本日ここに、小野・熊本県副知事をはじめ、衆・参両議院、熊本県議会の諸先生方、近隣の市町村長、そして友好町である北海道・大空町長等のご臨席を賜り、「氷川町誕生一〇周年記念式典」が開催されるに当たり、町議会を代表いたしまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

また、町政各般にわたる功労者として、栄えある表彰を受けられる皆様方、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げますとともに、深く感謝の意を表する次第であります。

さて、本町は、平成十七年十月一日、火の君の里「電北町」と、火の国発祥の地「宮原町」が合併し、両町民の大きな期待のもとに、火燃ゆる町「氷川町」が誕生し、早くも一〇周年を迎えました。誠に喜びに堪えませぬ。

合併以来、町は新町建設の基本方針に添い、まちづくりを着実に進めて来られたところでありますが、地方分権の進展、社会経済の低迷、急速に

進む少子高齢化や環境問題等、私たちを取り巻く状況は大きく変化し、住民ニーズは増大し、多様化してきました。

こういった中で、住民と行政が「役割分担」して協働で氷川町を創っていくと、平成二十年三月に「第一次氷川町総合振興計画」が策定され、議会はこれを承認し、この計画の実現の為に、初代・浜田町長や現・藤本町長、そして町民の皆様方や議会が一丸となって弛まぬ努力をし、お互いが知恵を出し、汗をかきながら、

将来を担う若い人たちのために、合併の利点を活かした町勢発展に取り組み、多くの成果を挙げ「氷川町」の礎となるものを、築いてまいりました。

天与の極めてすぐれた自然環境を持つ氷川町が、人と自然がうまく調和し、ここに生まれ、そして「住んでよかった」と言えるような、郷土愛に満ちた町になるよう、切に願うものであります。

終わりに、氷川町の限りなく発展と、町民の皆様方のご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。